

## 禅の視点 - life -

禅語の意味、経典の現代語訳、仏教や曹洞宗、葬儀や坐禅などの解説

[禅語エッセイ](#)

[禅僧の逸話](#)

[身近な仏教用語](#)

[日々の綴り](#)

[経典訳文](#)

[葬儀関連](#)

[坐禅](#)

[トップ](#) > [日々の綴り](#) > 禅宗とは？ 宗派（曹洞宗・臨濟宗・黄檗宗）の開祖や教えや歴史を紹介

2019-12-08

---

---

# 禅宗とは？ 宗派（曹洞宗・臨濟宗・黄檗宗）の開祖や教えや歴史を紹介

---

---

日々の綴り



## 禅宗とは？ 宗派（曹洞宗・臨濟宗・黄檗宗）の開祖や教えや歴史を紹介

禅が海外にも広まり、「ZEN」という表記もよく目にするようになった、今日この頃。

世界的な禅の隆興とともに「禅宗」という言葉もまた、以前よりも目にする機会が多くなったように感じる。

しかしながら、いざ「禅宗って何？」となると、意外と一言では答えにくいのではないか。

「禅宗っていうのは.....禅宗っていう宗派！」

と、答える方もいらっしゃるかもしれないが、それはちょっと違うんだな.....ということも含めて、禅宗について説明していきたい。

## 目次

1. [禅宗とは？ 宗派\(曹洞宗・臨濟宗・黄檗宗\)の開祖や教えや歴史を紹介](#)
2. [禅宗は宗派じゃない!?](#)
3. [禅宗の開祖](#)
4. [禅宗の誕生](#)
  - a. [禅とは何か](#)
5. [禅宗の特徴](#)
  - a. [系譜\(血脈\)](#)
  - b. [自力の教え](#)
6. [禅の系譜](#)
  - a. [インドにおける禅の系譜\(西天二十八祖\)](#)
  - b. [中国における禅の系譜](#)
  - c. [五家七宗](#)
7. [禅の日本への伝来](#)
  - a. [宋西と臨濟宗](#)
  - b. [道元と曹洞宗](#)
  - c. [隠元と黄檗宗](#)
8. [まとめ](#)



## 死生観 禅宗は宗派じゃない!?

世界中から、様々な死生観や死にたいする試み構え

一般的に仏教の宗派の1つと考えられがちな「禅宗」であるが、この禅宗という宗派は、**実際には宗派ではない**ことをご存じない方もいらっしゃるのではないかと思います。  
ok-die.com 開く

.....えっ？

### 禅宗って宗派じゃないの？

と思われたそこのアナタ。

そう。禅宗という言葉自体は存在するが、厳密いうと**禅宗という宗派は存在しない**のである。

禅宗というのは、曹洞宗や臨濟宗や黄檗宗といった、**禅を旨とする宗派をまとめた「総称」**であって、実際に禅宗という宗派が存在するわけではない。

ただ、現実的には便利な言葉なので多用されているが.....（私も）。

たとえばキュウリやトマトやキャベツなどを総称して「野菜」と呼ぶように、曹洞宗や臨濟宗や黄檗宗などを総称して「禅宗」と呼んでいるだけなのである。

**「野菜」という名前の野菜がないように、「禅宗」という名前の宗派はないのだ。**

Point!!

**禅宗という宗派はない**



## 禅宗の開祖

禅宗という括りは曖昧なところが少なくなく、開祖は誰なのかと考えた際にも、明確な答えを出すのは難しい。

一般的には**菩提達磨(ぼだいだるま)**が**禅宗の開祖に相当する**と考えられているが、あくまでも「相当する」としか言えない。

そもそも禅宗という宗派がないのだから、宗派でないものの開祖を言うのが難しいのは当然と言えば当然なのだが。

しかしまあ、強いて禅宗の開祖と思しき人物を挙げるとすれば、考え方にもよるがおそらく次の3名のどなたかになるのではないかと思う。

1. **ブツダ**
2. **菩提達磨**
3. **大鑑慧能**

1. のブツダは、ご存じの通り仏教の創始者であるお釈迦様のこと。

そもそも禅というものがブツダの仏法、特に坐禅を受け嗣ぐ宗派であることを考えれば、**禅の**

大元はブッダに行き着くと考えてなんら差し支えはない。

したがって禅宗の開祖はブッダであるという主張は、間違いであるとは言い難い。

2. の菩提達磨は、禅を中国に伝えた人物である。

禅宗という独自の特徴をもった集団が中国において出現したことを考えれば、**禅宗の開祖は中国に禅をもたらした菩提達磨である**と考えるのは、自然なことかもしれない。

ただし、菩提達磨が歴史上実在した人物であるかどうかは、じつは疑わしい部分が多い。

達磨とは個人ではなく集団を指すような言葉だったのではないかという研究者もいる。

ちなみに菩提達磨は、選挙で当選したときに眼を入れる、あの「だるまん」のもとになった人物である。

あの赤い「だるまん」は、達磨大師が坐禅をしている姿を模したものといわれている。

3. の大鑑慧能は、菩提達磨から数えて6番目の祖になる人物である。

この慧能禅師のもとから急速に禅が中国国内に展開していくため、**実質的に禅宗と言えるものの開祖にあたるのは慧能禅師**だと考えられなくもない。

Check!!

[六祖慧能禅師について](#)

まあ、どれも一長一短ではあるので、結論としては「**一般的には菩提達磨が有力だが、禅宗は宗派ではないので開祖を明確に規定することはできない**」とするのが無難なところだろうか。

個人的には禅宗の開祖はブッダであると思っているが.....。



## 禅宗の誕生

では開祖の不明確な禅宗は、一体いつ頃に誕生したのか。

これは、**菩提達磨がインドから中国に禅を伝えたと考えられている6世紀初頭**を基点とし、徐々に教団としての形態をとりはじめる6世紀後半あたりと考えてよいのではないかと思う。

人によってはインドの時代から禅宗が存在していたと主張する方もいるが、それにはちょっと賛同しかねる。

禅宗の特徴、たとえば**畑で作物を育てるといった生産活動などを作務と呼び修行と位置付け積極的に取り組むようになったのは**、やはり中国において生まれた禅宗独自の思想であって、インドにはない。

そういった特徴をもって禅宗と括るなら、**禅宗は中国において生まれたもの**と考えるのが妥当だろう。

インドの仏教と中国の仏教とでは、修行生活のスタンスに明らかに違いがある。

Point!!

禅宗は中国で生まれた

## 禅とは何か

禅を瞑想と捉え、瞑想がインドにおいても存在していたからインドにも禅はあったとする趣旨の話ならもちろん賛同できるが、禅ではなく「禅宗」がインドにもあったと考えるのは、どう考えたって難しい。

むしろ、インドと中国という風土・季候の違いや思想の違いなどによって、中国独自の仏教文化が花開き、その過程で禅宗という流れが生まれたと考える方がはるかに納得できる。

したがって、菩提達磨がインドから伝えたのも、禅宗ではなく「禅そのもの」と言うべきだろう。

インドから禅宗を伝えることができたとは、とてもじゃないが思えない。

Check!!

[禅とは何か？](#)

### 死生観

世界中から、様々な死生観や死にたいする試み構え

ok-die.com

開く

## 禅宗の特徴

それでは次に、禅宗の特徴について見ていきたい。

## 系譜（血脈）

禅宗という宗派は実際には存在しないが、禅宗と総称される曹洞宗や臨濟宗や黄檗宗は、すべて**達磨大師の仏法を受け嗣いだ方々**によって開かれている。

- 曹洞宗の開祖である道元禅師
- 臨濟宗の開祖である栄西禅師
- 黄檗宗の開祖である隠元禅師

みな達磨大師の系譜に属する人物である。

つまり禅宗の特徴の1つとして、禅をインドから中国に伝えた「**達磨大師の系譜に属する、達磨大師の仏法を受け嗣ぐ宗派**」という点が挙げられる。

そしてこの禅の家系図の如き仏法授受の系譜を、禅では一枚の大きな紙に書き記し、非常に大切にしている。

この紙を**血脈**（けちみゃく）という。



⇧ 血脈の一例 (画像引用：有限会社 寺村紙工)

ブツダからはじまる仏法の授受が、名前と朱色の線によって示されている。  
 血脈を見れば、自分が受け嗣いでいる仏法がどのような方々を経てきたのかが一目瞭然。



↑ 血脈を折りたたんだ状態。

だいたい15cm×15cmくらいになる。

ちなみに、広げた状態だと1畳くらいの大きさになる。

禅宗で系譜が重視されるのは、いわゆる「悟り」に至ったかどうかを判定するのは師匠の役目であり、悟りを開いたことの証明である印可（いんか）を師匠から受けることで、はじめて後継者となることができるという考え方が強固であるため。

したがって後継者になるということは、師の法を受け嗣ぐことであり、それは系譜に名を連ねることと同義なのである。

血脈は自分が師の法を受け嗣いだ者であることの証明書であり、逆に言えば、系譜に名のない者、悟りの印可を受けていない者は、正統な禅宗の祖（後継者）とはみなされない。

そのため禅宗には必ず、ブツダからはじまりどのような祖師たちの系譜を経て自分のもとまで仏法が伝わってきているのかを示す血脈が存在するのであり、法を受け嗣いだ者は自分の血脈を持っている。このことを伝灯ともいう。

何十代、あるいは百代以上にもわたる壮大で膨大な禅の家系図である。

Point!!

血脈には仏法の授受の系譜が記されている

## 自力の教え

系譜というハード面とは別に、もう1つの大きな特徴が禅宗にはある。  
それは「自力」の教えを説くという、ソフトの面。



たとえば、禅の特徴を端的に示した達磨大師の言葉として、次の名句が禅には存在する。

きょうげべつてん  
教化別伝  
ふりゅうもんじ  
不立文字  
じきしにんしん  
直指人心  
けんしょうじょうぶつ  
見性成仏

これを訳すと、おおよそ次のような内容となる。

「**経典に書かれている教えや仏に救いを求めるのではなく、ひたすらに坐禅をして自己をみつめ、自らが仏として生きることに徹する**」

Check!!

[不立文字の意味とは](#)

ここに禅宗のアイデンティティが端的に示されている。

つまり、**自らが仏として生きることに心の平安や救い、あるいは悟りを見出すのが禅の思想の最大の特徴**と言えるのである。

これは浄土系の「他力」の思想とはまったく異なるものであり、坐禅による修行こそがソフトの面における禅宗の特徴である。

Point!!

**「自分を救うのは自分である」が禅の教えの基本**

## 死生観

世界中から、様々な死生観や死にたいする試み構え

ok-die.com

開く

## 禅の系譜

禅において系譜が重要なのは前述したが、それでは実際にどのような系譜を経て曹洞宗や臨濟宗や黄檗宗が誕生したのかをみていきたい。

まず、系譜の頂点、仏教全体の開祖であるが、これはもちろん**ブツダ（釈迦牟尼仏）**。

じつは「過去七仏」といって、ブツダ以前の系譜も存在するのだが、これは思想の面から発生した系譜であって、史実として考えるべきものではない。

なのでここでは考慮しないものとする。

あくまでも頂点はブツダ。

そのブツダから仏法を受け継いだのは、ブツダの弟子の一人であった摩訶迦葉（まかかしょう）。

「[拈華微笑の話](#)」で有名な摩訶迦葉は、以心伝心によってブツダの教えを受け継いだことが認められたと言われている。

ただし、これもまた禅宗において強調される逸話であって、史実であるかどうかは非常に疑わしい。

**Check!!**

[「拈華微笑」の話](#)をどう理解するべきか

系譜を重視する禅宗では、ブツダからはじまる仏法が誰を經由して自分のもとまで伝わってきているのかを明確にすることが必須だったわけだが、そのためにはまずブツダからどの弟子に仏法が伝わったのかを示さなくてはならない。

そこで禅の伝燈（仏法の伝授）を記した書物にこうした仏法の伝授の話が記載されるわけだが、**これすらも思想の一部**であると指摘されることは少なくない。

実際、これらの書物はすべて後世において書かれたものであって、禅宗が主張しているだけである。

そのため、「史実としてブツダから摩訶迦葉に仏法が伝わった」とは言い切れない、というかまったく言えないので、客観的に物事を考えるならこの点には注意が必要。

ともあれ、禅宗と名乗るのであれば禅宗が考える禅の系譜に属している必要があるので、その後の系譜をなぞっていきたい。

仏教ではインドのことを「西天」（さいてん）と呼び、中国のことを「東土」（とうど）や「震旦」（しんたん）と呼ぶ。

なのでまずはインドにおける28人の祖の系譜、いわゆる「**西天二十八祖**」を確認していこう。  
**Point!!**

禅宗ではブツダの仏法の伝授を主張しているが、史実というわけではない

## インドにおける禅の系譜（西天二十八祖）

釈迦牟尼仏（仏教開祖）



1. 摩訶迦葉 まかかしょう
2. 阿難陀 あなんだ
3. 商那和修 しょうなわしゆ
4. 優婆鞠多 うばきくた
5. 提多迦 だいたか
6. 弥遮迦 みしゃか
7. 婆須蜜多 ぼしゅみった
8. 佛陀難提 ぶつだなんだい
9. 伏駄蜜多 ふだみった
10. 婆栗湿縛 ぼりしぼ
11. 富那夜奢 ふなやしや
12. 阿那菩底 あなほてい
13. 迦毘摩羅 かびもら
14. 那伽闍刺樹那 なぎやはらしゆな
15. 迦那提婆 かなだいぼ
16. 羅喉羅多 らごらた
17. 僧伽難提 そうぎやなんだい
18. 伽耶舎多 かやしやた
19. 鳩摩羅多 くもらた
20. 闍夜多 しややた
21. 婆須盤頭 ぼしゅばんず
22. 摩拏羅 まぬら
23. 鶴勒那 かくろくな
24. 獅子菩提 ししほだい

- 25. 婆舎斯多 ぼしゃした
- 26. 不如蜜多 ふによみった
- 27. 般若多羅 はんにやたら
- 28. 菩提達磨 ぼだいだるま

ずらり。

ここに挙げた祖師方はすべて西天の方々。つまりインドの祖師方である。

だから名前の発音がちょっと馴染みのないものばかりで、漢字もほとんど音訳の当て字。

**こうしてブツダからはじまった禅の教えが、1番目の後継者である摩訶迦葉に伝えられ、28代を重ねて菩提達磨に受け嗣がれていった。**

これがインドにおける禅の系譜である。

ブツダの時代が紀元前5、6世紀で、達磨大師が5、6世紀の方だから、**約10世紀 = 1000年という歳月を28人の祖師たちが受け継ぎ伝えてこられた**ということになる。

1人あたり約36年。

それを28回くり返した。

なんとも壮大な話だ。

Check!!

[ブツダが誕生してからの年月「仏暦」](#)

## 中国における禅の系譜

続いて、中国における禅の系譜をみていきたい。

中国の禅の初祖は、先ほどから何度も名前が登場している**達磨大師**である。

その達磨大師を初祖（一祖）と数え、二祖が大祖慧可、三祖が鑑智僧璨、四祖が大医道信、五祖が大満弘忍、六祖が大鑑慧能。

- 1. 菩提達磨
- 2. 大祖慧可
- 3. 鑑智僧璨
- 4. 大医道信

5. 大満弘忍
6. 大鑑慧能

この六祖に当たる慧能禅師がまた1つの基点となっていて、ここから禅が急速に中国国内に広まり、五家七宗と呼ばれる禅の興隆時代へと突入していく。

**中国において一気に禅宗が花開くのである。**

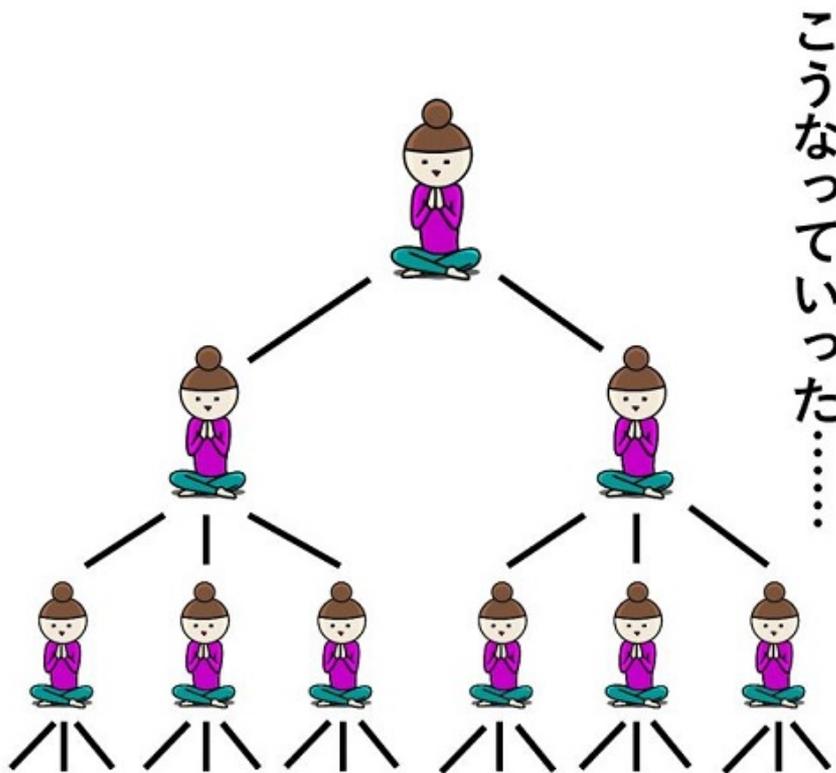
その最大の理由は、慧能禅師を筆頭にして、法を受け嗣いで輩出される弟子がとんでもなく大勢になっていくため。

慧能禅師のもとからは南岳懐讓禅師と青原行思禅師という優れた2人の弟子が輩出されるのだが（ほかにも法を受け嗣いだ弟子はいる）、そこから段々と法を受け嗣ぐ弟子の数が増えていくのである。

**代を経るごとに法を受け嗣ぐ弟子は増え続け、富士山の裾野のように規模がどんどん膨らんでいくのだ。**



こうだったものが……



この富士山の頂上に相当するのが慧能禅師であるため、慧能禅師は禅の大成者とも呼ばれている。

## 五家七宗

中国における禅の興隆を象徴する言葉といえば、何と云っても「**五家七宗**」。これは六祖慧能下における5つの宗派と2つの派の誕生を意味する言葉である。

5つの宗派とは、

- 臨濟宗
- 滙仰宗
- 曹洞宗
- 雲門宗
- 法眼宗

のこと。

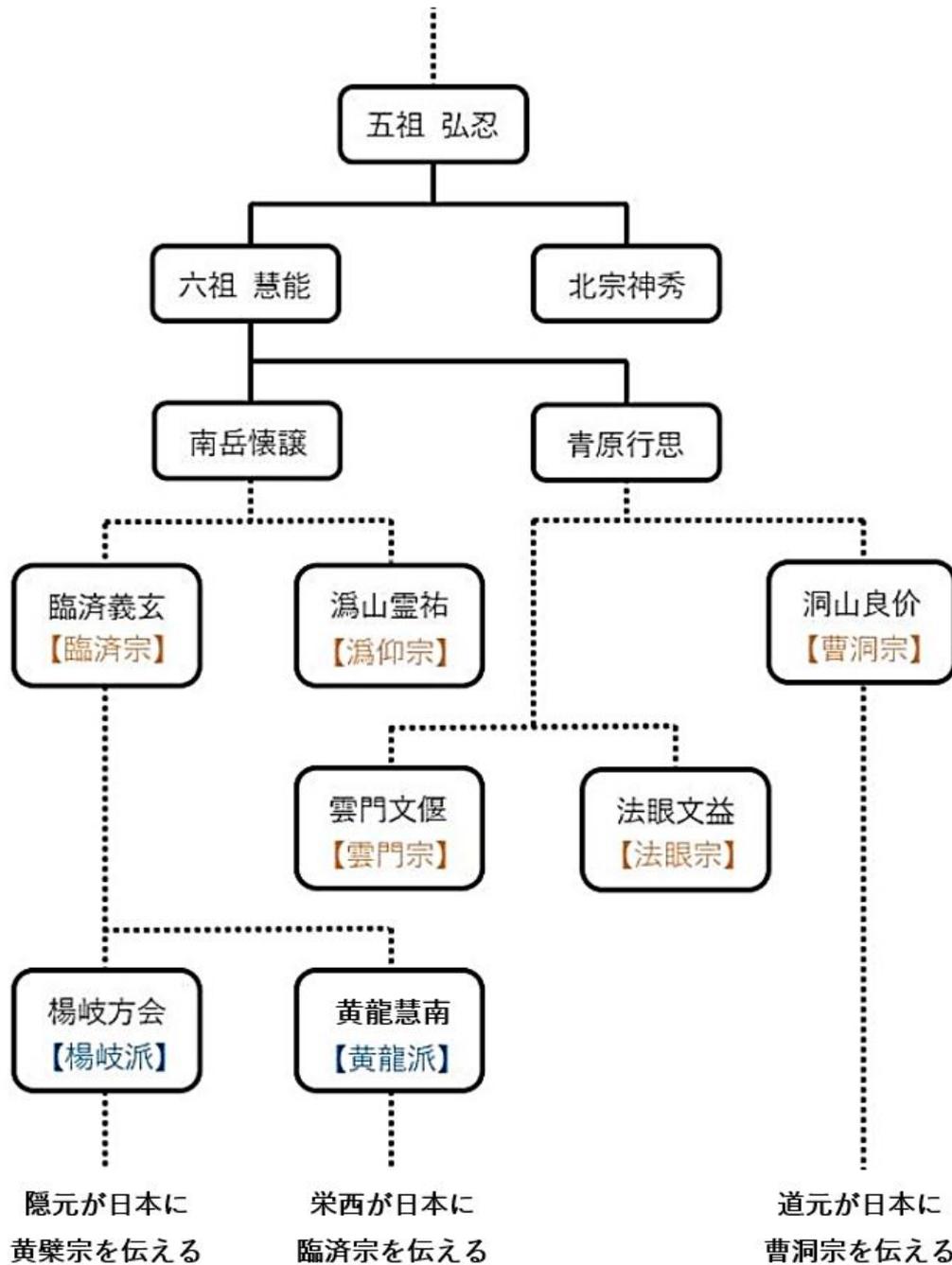
また、2つの派とは、臨濟宗における

- 楊岐派
- 黄竜派

のこと。

これらを合わせて五家七宗と呼んでいる。

下の図は、五家七宗の台頭と、それぞれの宗派が誰によって日本に伝えられたかを表した系譜である。



禅宗の略系譜

上の図は主要な人物だけをピックアップした簡略な系譜であって、実際にはもっともっと膨大な祖師方の名が連なっている。

次々と宗派が台頭する五家七宗の時代は、まるで仏教の戦国時代のようなニュアンスでもってイメージされることもあるが、宗派間の争いというものはほとんどなかったと考えられており、むしろ相互交流が盛んに行われていたと考えられている。

この五家が台頭した9世紀～10世紀、七宗の2派が台頭した10世紀～11世紀にかけて、中国禅は1つの完成に至ったと考えておおよそ問題ないだろう。  
Point!!

## 禅宗の確立は五家七宗の時代

### 死生観

世界中から、様々な死生観や死にたいする試み構え

ok-die.com

開く

## 禅の日本への伝来

12世紀に入り栄西禅師が中国へ渡って禅を学び、印可を受けて日本に戻ることによって、禅が本格的に日本へもたらされることになる。

じつはこれより前に日本から中国に渡って禅を学んだ僧はいるのだが、それらの僧は印可を受けていない。

印可とは、禅の仏法が受け継がれたことを師匠から証明されることである。

前述のように、**禅においては系譜がとても重要な意味を持つのであった**。それしか正統性を主張するものがないためである。

そしてその系譜は、印可を得て仏法が受け継がれることによって脈々と継承されてきたものにほかならない。

したがって、いくら独自に禅を学ぼうと、たとえ悟りを開こうと、**印可を受けることができないければ禅を受け嗣いだことにはならない**のである。

そのため、栄西禅師が日本に伝えた禅と、それ以前に中国で禅を学んだ僧とでは、禅の伝来の意味が天と地ほどに異なる。

### Point!!

禅宗では印可を受けたかどうか、正統と非正統の境目

## 栄西と臨濟宗



1187年、栄西禅師は中国へ2度目の留学をし、臨濟宗黄龍派の虚庵懐徹に師事し、**悟りを得たことの証明である印可を受ける。**

そして1191年に日本へ帰国し、九州各地に禅寺を開く。

さらに京都に戻って禅を広めようと布教にはげむのだが、この動きに反発した既成仏教勢力があった。

天台宗である。

当時、天台宗は公家や朝廷からの帰依を受けており、そうした天台宗のはたらきかけによって、臨濟宗は朝廷から禅宗としての活動を停止するように命令を下されてしまう。

これに対し栄西禅師は『興禅護国論』を著わし、自分が中国から伝えた仏教は最澄が伝えたものと同じであり、天台宗の復興を願うものであることを主張したが、残念ながら聞き入れてはもらえなかった。

しかたなく鎌倉に下った栄西禅師は、坐禅とともに**公案（師匠から与えられた禅の課題）に取り組む修行**を打出し、悟りを目指した宗風を広げた。

すると、その修行スタイルが武家の気風と合致し、なんと鎌倉幕府からの帰依を受けることとなった。

「尼將軍」北条政子や、鎌倉幕府2代將軍の源頼家といった錚々たるメンバーからの後押しを受け、栄西禅師は京都に建立された建仁寺の開山となる。

こうして**権力の庇護を受けた臨濟宗は、日本において発展していった。**

また、栄西禅師は中国から日本に帰る際に、お茶を持ち帰った。

**日本に喫茶の風習が広まったのは、この栄西禅師による功績が大きい**と考えられている。

じつは栄西禅師が3代将軍源実朝の二日酔いをお茶で治したという伝承も残っているのだ。

## 道元と曹洞宗



栄西禅師が中国へ2度目の渡航をしてから36年後、1223年に今度は道元禅師が仏法を求めて中国へと海を渡った。

道元禅師は比叡山で経典を読んでいて「人は本来仏である」という意味の言葉に出会い、「**もし本当に人が本来仏であるなら、どうしてさらに修行をして悟りを目指す必要があるのか**」という疑問を抱いた。

そしてその答えを求めて高僧らに教えを乞うのだが、満足のいく回答は得られず、こうなったら自分が中国に渡って真の仏法を会得するしかないと決断したのだった。

しかし中国各地の寺院を訪ねても、納得のいく答えを示してくれる師はなかなか見つからなかった。

途中、師を探す旅を諦めて日本に帰ることまで考え始めてしまう。

そんなときに如浄禅師と出会い、ようやく本物の師に出会うことができた道元禅師は、如浄禅師のもとで修行に励み、やがて**悟りを開き印可証明を受けるまでになった**。

そして5年間の中国での修行に区切りをつけ、日本に帰国した。

日本に帰った道元禅師は、ブツダが悟りを開いたのは坐禅によるものであり、坐禅こそが仏教の根幹であるとして、[坐禅修行](#)を広めた。

この、ただひたすらに坐禅を行う「只管打坐」と呼ばれる修行観は、臨濟宗の公案を主とする修行観とは相違する部分が少なくなかった。

Check!!

[曹洞宗と臨濟宗は修行のどこが違うのか](#)

坐禅修行を説く道元禅師のもとに、少しずつ教えを乞う修行僧が集まるようになると、臨濟宗と同じように外的な圧力が加わることになった。

比叡山からの圧力である。

やはり既成仏教にとって、新興勢力は認めがたいものだったらしい。

こうして道元禅師は修行の場を移し、最後には越前の山奥へと向かう。

そうして現在の福井県に誕生したのが、**曹洞宗の大本山である永平寺**である。

しかしながら、曹洞宗の開祖である道元禅師は、曹洞宗という名称を用いなかった。

それどころかむしろ宗派を名乗ることを戒めた。

**自分は一宗一派の教えを日本に伝えたわけではなくて、ブツダが説いた仏教そのものを伝えた**のだから、「〇〇宗」と称するのはおかしいと考えたためである。これは仏教そのものであると。

実際、曹洞宗という宗派の名前が普及しはじめるのは、道元禅師から数えて4代目にあたる、瑩山禅師の時代だと考えられている。

## 隠元と黄檗宗



臨濟宗の栄西禅師、曹洞宗の道元禅師の両人はともに日本人だったが、**黄檗宗の開祖である隠**

元禅師は中国の人である。

また、栄西禅師や道元禅師が鎌倉期の人であったのに対し、隠元禅師の生まれた年は1592年と、前の2人に比べればだいぶ後世の話でもある。

そんな隠元禅師は1637年に福建省の黄檗山萬福寺の住職となり、中国内にその名を知られる名僧となる。

そして1654年、隠元禅師は日本の寺院からの要請に応じる形で長崎へと渡来する。

隠元禅師が来日した時代の日本の仏教界は、鎌倉期の新興仏教の台頭の時代に比べてずいぶんと安閑とした雰囲気であり、悪く言えば活気を失っていた。

そんなときに中国から高名な僧侶がやってくるということで、**隠元禅師の来日は当時の仏教界にとってはビッグニュース**だった。

特に湧いたのは臨濟宗で、隠元禅師を妙心寺の住職に迎えるような動きさえもあった。

しかしそれは実現せず、結局は**京都の宇治に萬福寺を建立**し、隠元禅師はその開山となった。

隠元禅師は以後19年にわたって仏法を説き続け、**各宗派の復古運動**などに大きな影響を与えた。

そして日本の黄檗宗の開祖となった。

また、隠元禅師が日本に持ち込んだものは仏法だけではなく、インゲン豆や煎茶、普茶料理といったものもある。

こうして隠元禅師が日本に伝えた文化は**黄檗文化**とも呼ばれている。

## まとめ

- 禅宗とは、曹洞宗や臨濟宗や黄檗宗など、禅を旨とする宗派の総称であって、禅宗という宗派が存在するわけではない。
- 禅宗の誕生は不明確ながらも、菩提達磨が禅をインドから中国に伝えた6世紀初頭以降と考えることができる。そのため、菩提達磨が禅宗の開祖であると考えられることが多い。
- 禅宗はブッダや菩提達磨の教えを受け嗣ぐ宗派であるため、仏法を正統に受け嗣いでいるかどうかを証明する系譜（血脈）を非常に重要視している。

- 禅宗の教義の根本には坐禅があり、坐禅の心で日々を過ごすことを仏として生きることと同義と考え、自らが仏となって自らを救おうとする自力の教えである。
- 禅宗として有名な宗派は、栄西禅師が開祖の臨濟宗、道元禅師が開祖の曹洞宗、隠元禅師が開祖の黄檗宗などがある。

<p></p> <h2>死生観</h2> <p>死に構え</p> <p>世界中から、様々な死生観や死にたいする試み構え</p> <p>ok-die.com</p> <p>開く</p>	<p></p> <h2>お寺（本堂）で葬儀 家族葬</h2> <p>宗派不問・檀家加入義務なし</p> <p>お布施・寺院費用・葬儀社費用 全て含んだ定額で寺院での本当のお葬式を安心して</p> <p>shingan.org</p> <p>開く</p>
--	---

zen-ryujo [2019-12-08 19:00](#)

0	250 シェア	<a href="#">Tweet</a>
---	------------	-----------------------



宿坊のような旅館。本物の禅体験 - 永平寺の参道に元年7月26日開業

広告 hakujukan-eiheiji.jp

【一休宗純】読後に、思わず「なるほどねえ」と唸る禅僧の逸話

zen-essay.com

名古屋でのご葬儀なら - 創業37年の信用と実績の白川会館

広告 shirakawakaikan.co.jp

[Follow @zen\\_essay](#)

『般若心経』を現代語訳するところなる - 存在が存在することの...

zen-essay.com

24時間締め付け感なしの感動ブラ

広告 ジニエブラ

永平寺の七不思議

zen-essay.com

« 【仏画の画像】ポップ&アートな異次元の仏...

【害虫の種類】ゴキブリを害虫と呼ぶのは... »

### 【プロフィール】

色即是空の意味を知ったなら、次は空即是色の視点を持つと (ごとう・りゅうじょう)



禅・曹洞宗僧侶、エッセイスト

[佐藤隆定プロフィール](#)

「生きる」という、人間にとって根源的・日常的な活動について禅という視点から考え、法話や執筆等を通じて多くの方々に伝える活動を行っている。

著書に、禅語を題材としたフォトエッセイ『糧になる禅語 -いまを充実させる生き方-』（国書刊行会）がある。

お問合せは下記まで↓↓

reisenji [at] ccn.aitai.ne.jp

※ [at] を@に置き換えて下さい。



[@zen\\_essayをフォロー](#)

### 【糧になる禅語】

【両祖】曹洞宗の祖は2人いる 道元禅師と瑩山禅師～

永平寺での修行中にやらかした最大の失敗 ～これがケチラシだ～



※本書の売上のうち、著者印税分は、認定NPO法人 国境なき子どもたち (KnK) に全額寄付され、困難な状況下にある青少年の教育と自立のために活用されます。

### 【カテゴリー】

[禅語エッセイ \(59\)](#)

[禅僧の逸話・エピソード \(73\)](#)

### 【よく読まれている記事】

